

科目名	カウンセリング実務論 I				
担当者氏名	大森 彰				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・秋期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 教養教育-2 豊かな人間性の醸成 ◎ 教養教育-3 コミュニケーション能力の向上				

《授業の概要》

臨床心理学、カウンセリングの様々な理論や技法を学習する。ペアやグループでの会話を通して「傾聴、共感、受容」のコミュニケーションスキルを学びながら展開していく。保育者や教員に求める「カウンセリングマインドとは何か」を追求し身に付ける。カウンセリングの理論・技法を学びながら、コミュニケーション能力を高めていく。自己を肯定的に捉え、他者を尊重する考え方、態度を身に付ける。

《授業の到達目標》

カウンセリングとは、心理的問題を抱えた人が、カウンセラーと共に問題の解決や自分自身について考えようとするものである。自己を知ることは、自分自身の「今のあり方」について「気づく」ことである。そのことを通して、自律性を身に付け社会生活の中でより充実した人間関係を構築する力を育てることを目的とする。

《成績評価の方法》

平常点（小テスト、レポート等を含む） 40%
 中間テスト・期末レポート試験 60%

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

適宜資料を配布する。

《授業時間外学習》

- ・「日々の暮らしが、学びの場である」と位置づけ、日常に学んだことを活かしていく。学んだことを体験学習として、レポートにまとめる。
- ・知識理解については、期末テスト及び小テストを実施する。（毎回の学習内容を出題するので、その都度復習をしておく）。

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	この授業の進め方・評価方法・学習内容
2	コミュニケーションの基礎技法(1)	カウンセリングの基礎知識について（精神分析、行動主義、来談者中心療法について） ・ラポールの育成（コミュニケーション力）
3	コミュニケーションの基礎技法(2)	「傾聴・共感・受容」するコミュニケーション能力
4	コミュニケーションの基礎技法(3)	「アサーション」について
5	コミュニケーションの基礎技法(4)	アサーティブコミュニケーション
6	自己実現をめざして	「マズローの欲求段階説」について ・アイデンティティの確立
7	交流分析①	「交流分析」について
8	交流分析②	「自我状態」5つの機能
9	交流分析③	エゴグラムをもとに自分の自我状態に気づく。
10	精神分析療法①	無意識について ・神経症と抑圧
11	精神分析療法②	フロイトの局所論と心的構造論
12	精神分析療法③	「防衛機制」について
13	行動療法	行動療法の成り立ち ・古典的条件付けとオペラント条件付け
14	来談者中心療法	子どもを信じること（受容・共感・自己一致）
15	自己を見つめる	カウンセリングの学習を通して自分自身を振り返る（まとめ）